

本日は私ども修了生のために、このような盛大な学位授与式を催していただき、またご多忙にもかかわらずご出席くださいました諸先生方をはじめ、多数の来賓方に心より感謝申し上げます。式典においては塾長殿、また前野研究委員長殿から心温まるお言葉を頂戴頂き、修了生一同、感謝の気持ちで一杯であります。誠にありがとうございます。

システムデザインマネジメント研究科、SDM 研究科で過ごした時間と経験はかけがえのないものとなりました。様々な国籍や背景を持つ人が集まり、互いに切磋琢磨して学び合うこの SDM 研究科独特の環境は、私たちに多様な価値観とモノの見方を与え、入学前に持っていた己の枠の外へと私たちを導いてくれました。

SDM 研究科で学んだ経験の中で、記憶に強烈に残っていることはデザインプロジェクトでの時間。実際の企業様から課題を頂き、チーム一丸となって解決策を作り上げるために頭を悩ませました。時には、互いの考え方の違いから議論が白熱し過ぎたこともありましたが、その苦労の分だけ、成果を出したときの喜びも達成感も一入でした。

また教わった手法や考え方を応用し、研究という形で、自分の学習成果を出しながらも、一層 SDM 研究科で授かったモノの見方を磨くことができました。

SDM 研究科での学びから、私たちは人と人をつなげる事、そしてその重要さを教わりました。ある課題に対する問題意識を持つのも、解決策に対する価値を感じるのも、究極的には社会を成している私たち人です。しかし、人個人の視界は、実は自分を中心に少し広がっているのみ、残念ながらそんなに良いものではありません。

真に社会のために価値のあるモノやコトをデザインするためには、使う人についてよく理解し、共感を得ながら事を進める姿勢が大切です。そのために良く人を観察し、対話し、経験や価値観をより合わせながらコトを進める重要性を学びました。

また「協創」という言葉があるように、モノを作る時に他人と連携することが、より素晴らしいモノづくりへと導いてくれることを体感いたしました。SDM 研究科の中には、社会を一度経験され、既にある分野の専門家である方が少なくありません。違う分野の専門家が同じ机を囲み、一つの課題に取り組むことによって出る成果は、一人で机に向かっている時とは比べものにならず大きくなりました。この感覚を実感したことは、実践の場で協力しながら作業を進める時の自信となると思います。

私たちは、これから実践の場へと身を移します。実業界へ進むもの、己の国のために尽力するもの、学びを深めるもの、進む道も様々あります。それぞれがきちんと、それぞれの場で価値を提供できるように、今まで学んできたことを忘れず、生かしていく所存であります。現状に甘んじることなく、常に広い視野をもって学習をし、己の向上につとめながら、グローバルな視点で人と人をつないでいきたいと思えます。

学生生活において、手厚くご指導頂きました諸先生方、学生部の方々、並びに私たちが大学で学ぶ間、支えてくださいました多くの方々にこの場を借りて御礼申し上げます。

最後に慶応義塾大学のさらなる発展を願い、そして諸先生方のますますのご健康とご活躍を祈って、修了生一同を代表いたしましての謝辞とさせていただきます。

平成27年9月16日

システムデザインマネジメント研究科修了生 古川 俊太